

「令和3年度学校関係者評価」の実施結果と今後の課題について

1. 学校法人国際総合学園 国際情報工科自動車大学校における「令和2年度自己点検・評価」は、令和3年7月1日に前年度の点検評価結果に係る改善内容も視野に入れ、自己点検・評価を実施し、令和4年3月24日に学校評価委員会6名（欠席0名）に対し学内職員3名で報告を行い、本書のとおり報告書をまとめた。
本校の自己点検・評価については一般社団法人全国専門学校教育研究会の策定した、自己点検・評価報告書「作成ハンドブック・作成マニュアル」を基本に進めた。
2. 全国専門学校教育研究会版「作成マニュアル」の自己点検・評価基準をベースに、自己点検・評価を行い、その結果を根拠資料と共に提出。その過程において、不備な点等の改善について、今後の方向性を協議するとともに、次年度以降の取り組み課題とした。
3. 今後の課題として、令和元年度学校関係者評価を受け一定の方向性を持って、学校評価を進めて行くことにより、本校における質の保証・向上のなお一層の取組充実が図れるよう努めていきたい。

学校関係者評価報告書（「学校関係者評価委員会」報告）

1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1) 教育理念（建学の精神）

（教育理念）

「将来の職業に関する高い専門能力を追求しながら単に知識・技術教育に偏ることなく、広い視野と豊かな人間性を持った、創造性に満ちた人材育成の場」であることを教育の基本理念とし、常に変化していく時代に即した工学系専門教育機関として、地域社会の振興はもとより、国際社会の発展に寄与するものである。

2) 教育目的・教育目標

教育理念（見学の精神）・目的・目標は他者が確認できる状況を構築しており、1から4は達成している。

改善点としては、項目5学外教育計画の公表に関してできているのが職業実践専門課程認定学科のみなので、全学科の教育計画を作成し公表するよう推進する。

■評価委員からの意見等

「1 建学の精神・教育理念・教育目的・教育目標」についての意見等はなかった。

2 教育の内容

1) カリキュラム作成等

昨年度に引き続き、カリキュラム編成、シラバス作成は滞りなく計画的に実施されているので継続して取り組む。

6項の「コマシラバス」に関して必要な学科については作成を進め対応していくが基本、学生の能力に合わせた学習進度を優先としたい意向もある為、週シラバスを基本とした学習計画で進捗管理を進める。

2) 学習プロセスの改善

毎年行っている「学生アンケート」を計画的に実施して指導・改善していくことはもちろんのこと、評価の結果を授業改善に活かすという観点から、管理職によるフィードバックの実施を今後も継続し、教育の質向上に努める。

3) 業界ニーズに対応した付加的教育

企業・行政との連携も大切であるが、地域と連携を図ることが今後重要になる。内容を精査し地域と連携した授業展開を構築する。

4) 教職員の資質の維持や向上

教員の研修については計画的に実施され、各業界の新技术研修会にも参加している。継続して研修を実施し質の向上に努める。

■評価委員からの意見等

「2 教育の内容」についての意見等はなかった。

3 教育の実施体制

1) 教育環境の整備・活用

ほぼ適正に整備されている。なお、今後の課題としては図書室が設置されていないため、各教室に図書を設置し対応できるよう準備を進める。

■評価委員からの意見等

企業にも様々な書籍があるため使用しないものを学校に設置してはどうかとの意見を頂いた。各教室に頂いた書籍を配置して学生が活用できるように準備する。

4 教育目標の達成度と教育効果

1) 教育目標の達成に係る取組と評価

目標設定・共有・記録・今日票については適正に行われている。

20 及び 21 の項目については過年度からの課題。

今後、元担任より SNS による確認及び後追い企業訪問を中心とした卒業生状況把握を推進。

■評価委員からの意見等

元担任からの確認のほか、年に 1~2 回オンラインで同窓会を実施し近況報告の場を設けてはどうかとの意見を頂いた。

同窓会と連携してオンライン同窓会開催に向けて準備を進める。

5 学生支援

1) 保護者会及び企業の会設置について

入試から入学・在籍まで基本的な学生支援は構築できている。

なお、18~22 の項目に関しては同窓会と連携を図りながら支援活動を拡大させる。

23、24 の項目、保護者の会、企業の会をニーズ調査しながら設立に向けた検討実施。

■評価委員からの意見等

学校で学んだことをうまく活かせない学生のために、企業の会を設立しセミナーなどを実施してミスマッチを防ぐような体制にしてはどうかとの意見を頂いた。

企業の会をニーズ調査しながら設立について検討する。

6 社会的活動

項目 2,3 については今後さらに拡充、積極的な参加を推進。

項目 5 については過年度に意見があり一部学科から導入検討中。

令和 4 年より、全学科で SDG s の取組導入。

■評価委員からの意見等

SDG s に取り組むために関連の映像等を使用して現状を学生にしていることが大切との意見と福島県内で温暖化に対するロードマップが 4 月に発表されるようなので参考にすると良いと意見を頂いた。

4 月以降、ロードマップを参考に今後の導入方法を検討する。

7 管理運営

基本的な管理・運営体制は確立されている。

■評価委員からの意見等

「7 管理運営」についての意見等はなかった。

8 財務

予算計画、執行、会計において公正に運営されている。

■評価委員からの意見等

「8 財務」についての意見等はなかった。

9 改革・改善

自己点検・評価は平成 25 年度より継続しており、報告書の作成と共に、毎年適正に HP で公表している。

■評価委員からの意見等

「9 改革・改善」についての意見等はなかった。

以上

◆学校関係者評価委員

- ・自動車整備振興会 専務理事
- ・IDGA日本 副理事長
- ・日本建築家協会東北支部
- ・福島県消防設備協会
- ・福島大学 教授
- ・株式会社アルサ 執行役員 事業本部長

◆学校側報告者

- ・事務局長 鈴木 詩織
- ・教務部長 阿部 一則
- ・教務部長 鈴木 友二